

地域課題・目指す将来像

地域課題

- 高齢化率は、43.9%(採択時)で増加傾向。特に高齢者が多く居住するエリアは、**家屋が密集**しており、既存コミュニティバスでは、運行することができないほど**道路が狭く**、既存バス停まで歩いていくのも困難。**ラストワンマイルの支援**
- 漁業振興や森浦湾等における観光振興

将来像

- 住民が公園の中に住んでいるような衛生管理の行き届いた清潔感のあるまちづくりの推進 過去・現在・未来くじらに関わり続けていくまち
- くじらの学術研究都市=まち全体博物館の実現
- 高齢者が年齢を重ねるごとに幸せを感じることでできるまちづくりの推進

推進体制



課題解決に向けた取組

自動運転実証事業、ドローン実証事業、見守り実証事業

- 自動運転実証事業：自動運転による持続可能な公共交通サービスの実現
  - ・ 町の中心部並びに主要施設（病院・スーパー等）を多頻度で往復・周回することによる高齢者の生活の足を確保
  - ・ 道の駅を拠点とした主要観光地を巡る観光客の足を確保
- ドローン実証事業：海域における物資輸送や鯨類調査等の実現
  - ・ 漁具等の輸送による漁業従事者の負担軽減
  - ・ 観光客（マリン事業）へのサービス提供や、鯨類調査の効率化によりくじらの学術研究都市の実現を加速化
  - ・ ドローン物流により距離的・時間的障壁を解消
- 見守り実証事業：防犯カメラ等を活用した高齢者見守りシステム構築の実現
  - ・ 車載カメラ、防犯カメラを活用し、高齢者の見守りシステムを構築
  - ・ カメラ画像を活用し、顔認証と行動認識を検証、認知症による徘徊や身体障がい者の危険察知等を実施



自動運転実証予定車両



2022年度の  
主な取組

- 高齢者等のラストワンマイルの支援として、スローモビリティを活用した自動運転レベル2の実証実験を8月から9月にかけて実施
- 自動運転実証実験の結果を踏まえ、2022年11月1日より車両を2台とし、自動運転サービスを実装
- 道の駅を拠点とし、観光客を対象としたドローン物流実証実験を11月に実施

## 取組内容

## 自動運転車両を活用した公共交通サービス実証実験（2022年8月1日～9月30日）

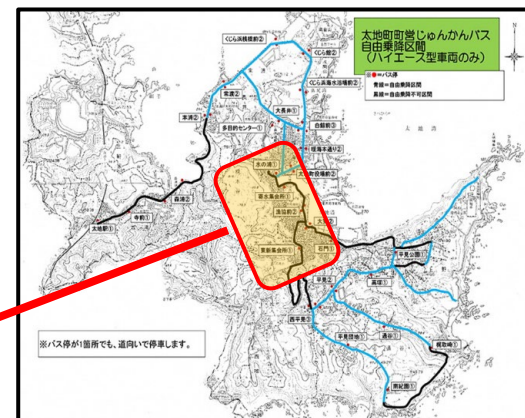
- 2004年より全町公園化を目指し、町内の至るところにベンチや公衆トイレを整備、スローなまちづくりを推進。
- 高齢者が多く居住するエリアは、家屋が密集しており、既存コミュニティバスでは、運行することができないほど道路が狭く、既存バス停まで歩いていくのも困難。**高齢者等のラストワンマイルの支援**として、スローモビリティを活用した**自動運転レベル2の実証実験を実施**。
- 地域の拠点となる役場・スーパー・病院を周回（**3.2km/周・9便/日**）、**高齢者の外出支援を促進**。
- 誰もが気軽に利用できるよう**運賃は、無償（延べ利用者は：約500名）**、悪天候時を除き毎日運行。
- 運転手兼乗務員には、地域の見守り活動もお願いし、積極的に高齢者などへの声かけを実施。**自動運転車両のサロン化**。



狭隘箇所を走行している様子



自動運転走行ルート（太地港周辺地区）

既存の公共交通ルート  
（町営じゅんかんバス）

## 実装内容

## 自動運転車両を活用した公共交通サービス（2022年11月1日～）

- 2022年8月から9月末にかけての実証実験の結果を踏まえ、**11月1日より車両を2台に増やし、サービスを実装。**
- 実装に至った背景は、何よりも地域から早く実装してほしいとの声が多くあったこと。また、実験終了後にルート上に位置する住民を対象にアンケート調査を実施、**自動運転に対する安全性・快適性・定時性・利便性・継続性について高い評価。**
- **約20分間隔で毎日18便運行**（8時30分から18時の間 ※充電時間の12～14時は除く）。運賃は、無償とし、利用者に制限なし。
- 自動運転が地域になじみ、ある高齢者は、「**私のマイカー**」と呼んでいる。

●運行主体	太地町 （2022.8～9実証実験、11～実装）
●運行形態	○1日18便運行（車両2台による） ○自動運転レベル2走行 ○運転手兼補助員は、町が会計年度任用職員を募集、3名雇用
●安全対策	地元警察等関係者と協議済
●路上施設	電磁誘導線を2022年度上半期に施工
●自動運転車両	●仕様 ・乗車定員：5人 ・自動運転時：3～12km/h想定 ・全長：3.43m、全幅：1.36m



利用者が病院で降車する様子